

【第3回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

【日 時】 令和2年2月17日（月）10:00～12:15

【場 所】 石狩市学校給食センター会議室

【出席者】 15名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	酒井 志津子	○	委員	徳光 康宏	○
副会長	竹口 尊	○	委員	佐藤 拓也	○	委員	林 美香子	○
委員	尾田 真	○	委員	柴田 肇	○	委員	原 俊彦	○
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	×	委員	向田 久美	○
委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	○			
委員	小渡 信洋	○	委員	田原 朋学	○			

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域創生部：守山部長

□事務局 石狩市企画経済部：小鷹部長、中西次長兼企画課長、中館企画担当主査、
橋本企画担当主任、本庄企画担当主事

【傍聴者】 0名

【次 第】 1. 開会

2. 議題

・第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

3. 現地視察

・石狩市学校給食センター

4. その他

5. 閉会

【角川会長】

それでは定刻を過ぎましたので、令和元年度第3回石狩市総合戦略推進懇話会を始めたいと思います。本日は大変天候の悪い中お集まりいただき、皆さん本当にありがとうございます。いつも市役所で行っている懇話会ですけど、今回はフィールドワークということで、場所を給食センターのほうに変えています。フィールドワークは通常見学が多いということなんですけど、今回この会議室をお借りしまして、通常の懇話会の流れで、後ほど事務局のほうから詳しく説明させていただきますけど、10時45分くらいまでを目途に意見交換、あるいはパブリックコメントの報告をさせていただきたいと思います。

その後は、同じ会議室で給食センターの概要についてのスライドを見ながらお話を聞いて、最後に給食を皆さんにも召し上がっていただくことになります。私も給食を食べる機会、当然ながら小学校、中学校以来ということになるので、非常に楽しみです。給食センター自体も中に入ったのは初めてなんです。実は犬の散歩コースで、立派な建物ができるんだぐらいにしか見てなかったんですが、もう3年目ですか。早いなと思います。今日は給食センターがどういう成り立ちでできたのか、あるいはどういうものか、当然給食を作っているわけですけど、どういう流れで給食を作っているのかというのを見ながら、昨今の給食事情を勉強したいなと、私も非常に楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

本日は白井委員が都合により欠席ということになりますので、よろしくお願いします。それでは早速

次第に沿って進めさせていただきます。事務局の方から説明をお願いします。

【事務局（中舘主査）】

事務局の中舘でございます。最初に、本日の資料のご確認をお願いいたします。事前にお送りしております、

①「次第」

②【資料1】第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

本日机上配布しております、③【資料2】第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に寄せられた意見と検討結果について

④1枚ものの「第2回総合戦略推進懇話会からの修正箇所について」

以上、4点になりますが、お持ちでない場合はお申し出ください。よろしいでしょうか。

それでは、資料に基づきご説明いたします。パブリックコメントの資料「第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に寄せられた意見と検討結果」をご覧ください。

令和元年12月27日から本年1月31日までの1か月間、意見を募集し、3名から意見の提出があり、意見の数は16件ございました。主なものとしては、用語の説明や文言の修正を求めるものが6件、エネルギー関連産業に関するものが4件、その他、掲載した各種個別の施策項目に関するものが6件です。

意見の対応としましては、原案の修正等を行う、採用もしくは一部採用とするものが5件、意見を原案に反映せず、不採用とするものが8件、その他の意見等とするものが3件ございます。この内、原案の一部修正したのものについては、そのほかの修正と合わせて後ほど説明いたします。また、「意見の要旨」「検討結果」の詳細につきましては、本資料によりご確認ください。

【事務局（橋本主任）】

事務局の橋本です。続きまして、総合戦略（案）についてご説明いたします。

昨年11月28日に第2回懇話会を開催し、案をお示しいたしましたが、その後、議会報告やパブコメ等を踏まえ、何点か修正したところがございますので、その部分をご説明いたします。

資料1の冊子のほか、本日配布いたしました1枚ものの資料「第2回総合戦略推進懇話会からの修正箇所について」とあわせてご覧ください。

3ページ、①総合戦略の策定（Plan）とあるところの4行目、産学金労言の説明を追加しました。

11ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から2つ目、具体的な事業として結婚新生活支援事業を挙げていますが、そのKPI、補助金支給世帯数5年間で72件を、5年間で90件に修正しました。この事業は、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用しており、昨年度までの実績等を考慮し、72件としておりましたが、今年度の状況等を踏まえ、補助金支給世帯数を年間18件と上方修正したものです。

同じく11ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から3つ目、「豊富な知識や経験を持つ…」とある項目の（具体的な事業）の6つ目に、「コミュニティ・スクールの推進」を追加しました。地域住民が学校運営に参加する「コミュニティ・スクール」は、令和2年度（2020年度）から導入されます。

13ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から1つ目、（具体的な事業）の4つ目、「地元の高齢農家や新規就農者への拡大検討」を、「漢方生薬栽培の拡大検討」と修正しました。

14ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から4つ目の1行目、「豊富な地場農水産物と石狩の農業への理解…」という部分を、「地場農産物」に修正しました。

21ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から3つ目、「市民が日々の暮らしを…」という部分。3行目に「また、スポーツ広場などを活用したスポーツ拠点づくりを推進する」を追加しました。こちらについては、スポーツ・健康のまちづくりの推進にあたり、スポーツ広場、こちらはソフトボール場を4

面、サッカー場を2面、そのほか多目的広場が配置されていますが、2023年の高校総体での活用が見込まれていることなどを踏まえ、スポーツ拠点としてのフィールドづくりが重要と考えたためであります。

22 ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から2つ目、(具体的な事業)の後に、集落支援員の説明を追加しました。

23 ページ、項目の2つ目「(6) 鮭の歴史文化の醸成による観光産業の活性化」を、「歴史文化の醸成…」として鮭を削除し、広く歴史遺産を活用することとしています。また、「具体的な施策・事業」欄の上から2つ目の4～5行目は、「鮭を中心とした観光産業の活性化を図る」とあったところですが、幅広く資源を活用するため「鮭などを活用した観光産業の活性化」に修正いたします。なお、事前に送付しております戦略案では、「歴史遺産を中心とした」とありますが、こちらは誤記載ですので、修正いたします。

26 ページ、「具体的な施策・事業」欄の上から2つ目、「施設の適切な…」とある項目の(具体的な事業)の2つ目、元々「廃止となった施設の民間等による有効活用」でありましたが、市内にある市所有の土地も含め有効的な活用を図る必要があるため、「市有地」を追加しました。また、3つ目の「・市有地等の活用による地域振興拠点の形成」を追加しました。

以上が、前回懇話会からの変更点となります。説明は以上です。

【角川会長】

ただいま、事務局から説明がありました。1回目、2回目の懇話会で皆様方からご議論いただいた部分を反映させながら、修正をしております。まずご意見あればお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。修正箇所の質問、あるいはこうした方がいいんじゃないかということを含めてご意見いただければと思います。修正箇所に関してはよろしいですか。今ご覧いただいて、なかなか出てこないのかもしれませんが、まずよろしいということで。後ほどまだ時間がございますので、後で思いついたり、ご意見が出てきた場合は、教えてくれて構いません。

それでは時間がまだ30分ほどございますので、情報提供も含めて、石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略、この冊子全体のことで構いませんので、何かご意見等ある方いらっしゃれば、ぜひお伺いしたいのですが。前回、林先生がご欠席されたので、ぜひ何か情報、あるいはご意見ございますか。

【林委員】

久しぶりなんですけど、よろしくお願いいたします。今日はたまたま雪が降った後ということもあって、やはり北海道の地域づくりというのは、夏場とは違う冬の視点というのは本当に重要なことだと思いました。例えばこれで吹雪いたりしたら、もっと大変だったんだろうなと思ったんです。そういう点で考えると、すごく細かなところまでいろいろ目配りしてあると思うんですけど、冬に関しては、大丈夫かなというのは改めてちょっと思います。札幌の場合でいうと、雪まつりの直前は本当に雪がなくてもものすごい大変で、雪像を作り出したら、雪が降って大変なこともあったんですが。細かいところまでちゃんと見てなくて申し訳ありません。どこという指摘ではないんですけど、そういう視点を持って地域づくりをしていかなきゃいけないと感じています。

【角川会長】

今年は本当にご承知のとおり小雪と。私どもそういう仕事をしているので、死活問題だったんです。2月になって少し降っているんですが。例年であれば、特に厚田、浜益のほうはかなりの積雪量、あるいは風が吹くとホワイトアウトしてしまうということで、危険な状態なんですけど、今年はあまりないですね。そんなところの対応、対策というのは考えていかないと。孤立化してしまう状態がありますから。

【河野委員】

先ほどの修正箇所の所なんですけど、確認をさせてください。23 ページの「具体的な施策・事業」上から2つ目の4～5行目ということで、「鮭を中心とした」というところを「鮭などを活用した」と改めて観光産業の活性化とお聞きしてここに書いてあるんですが、いただいた原案の方には「鮭など活用した」が入ってないんですけど、どっちが正しいでしょうか。

【事務局（橋本主任）】

事前にお送りしたものから、「歴史遺産を中心とした」となっている部分が、正しくは「鮭などを活用した観光産業の活性化を図る」となります。

【河野委員】

こちらに「鮭などを活用した」を入れればいいんですね。

【事務局（橋本主任）】

そうです。そして「歴史遺産を中心とした」を削ってください。

【河野委員】

いただいたやつ、全部お話聞いて付け合わせていったんですけど、他の1～8、10までは全部赤字に直ってるんですけど、9だけが直っていなかったの。

【角川会長】

前の冊子の段階より、更に変更ということですね。

【小林委員】

情報提供いいですか。この中で子育て世代だと自負しているんですが、春から石狩の小児科の病院が1軒になっちゃうんですね。昨年まで3軒あったんですが、花川南のほうも1軒閉院してしまっ、3月でホーマック横の桑島さんが閉院して、1軒になってしまう。その1軒も決して大きくないし、駐車場が狭いし、元々人気があるところだったんで、うちとしては予防接種とか、病院に通うときには、そこを敬遠していたんです、混むから。今度はそこ1軒になっちゃう。これを何とかできないものかなと思って。行政で何か用意するわけにはいかないだろうけど、どこでこれを改善するのか。子育てに力を入れてる中で、小児科にかかりたい時、かかりつけ医が近くにあるのとなないのでは、全然子育てが違うと思う。車で子どもを連れて行くにしても、熱のある子を連れて札幌までいくのか、すぐ近くの5分のところで、とりあえず診てもらって応急処置をしてもらうのかで違うと思う。どこに話を持っていいか、モヤモヤしている。何かこれに対して意見や対策をしたことが行政であるのかということ、何かもしご存知でしたらと思うのですが。

【角川会長】

その話題まさに、私も小さい子がいるので、今言った桑島さんにお世話になっていたんですけど、3軒が1軒になることで、うちのお嫁さんにも「パパ、石狩のいろんな会合に出てるなら、言ってくれ」と言われている。3軒が1軒はかなり。今までも空いていたわけではなく、どこも混んでいて、何時間も待っていた。結構重大だなと思う。行政としてはそれを推進したりするというのは、難しいと思うんで

すけど。開業していただくというね。

【小林委員】

歯医者とは次々と開業するのに。元々の成り手の問題とかもあると思うんですけど。この人口にこの歯医者さんの割合はどうかと思うんです。それにしても小児科医はもっといないと本当に困る。たまたまなんでしょうね、3軒が1軒になったというのは。

【林委員】

閉院した小児科というのは、後継ぎがないからとか。

【小林委員】

そうですね。決して若い方ではないので、年齢的な問題で閉じられると思うんですけど。

【事務局（小鷹部長）】

市の方も、今、小林委員おっしゃられた問題というのは、早くから認識してまして、1院になってしまうということ、保健福祉部あわせて市部局でも大変危惧している問題である。残る1院に関しても、先生の年齢から考えても、長くは難しいんじゃないかとも思っていて。その中で特効薬がなかなか見つからないというのは、行政としても難しいところでもあります。例えば先生に来ていただくために、補助金を出すとか、やっている所はあるんです。過疎の病院ですとか。そういうことも含めて、次年度以降に、1院がいつまでもつかわからないという事情も含めて、考えていかなきゃいけないというのがまず一つ。もう一つは、やはり皆さん感じているように、札幌に近いという独特の地域特性がございまして、ある意味親御さん方もそんなに困っていないというのが一部ではある。近くにあればやはりいいんですけど、車でいきますので、5分走るのか10分走るのかの違いぐらいになっているという部分がある。それを含めて市の方でも対策を考えていこうと思っています。

【原委員】

よその自治体の話で恐縮ですが、小児科どころか病院がなくなりそうだということで、町長さんが危機感を持って一生懸命頑張っている所もあるんです。やっぱりお話を聞いていると、お医者さんが捕まらないという話なんです。北大とか中心になっている医学部との関係で埋まってくるみたいですから、直接交渉されて、やっていかないとどうにもならないみたいですね。北大の保健医学部の小笠原先生という方が、北海道内の病院の配置の問題とか研究されているが、地理情報システムを使っていろいろ分析していると、もうどうにもならない所がたくさん出てくるということです。この場合は、むしろまだいい方なんだと思うんですよね。でも時間とともに、子どもが減るという問題と医者が減るという問題は同時に起きてくるみたいですから。表向きだけじゃなくて、かなり深い動きをされないと難しいかもしれない。

【事務局（小鷹部長）】

特に、小児科医もそうですし、今おっしゃられた過疎医に関しても、浜益はどちらかというところと過疎にしては近いところにある過疎医で、今までそんなに困ってはいないんです。今の先生というのは、元々乙部町にいらっちゃって、乙部町の寺島さんという有名な町長さんとケンカして出てきたんですけど、ラッキーパンチでたまたま石狩市に来ていただけた。過疎医の先生を見つけるのは非常に難しく、ある意味、北大ですとか医大ですとか系列がある他に、自治医大の方々がやっぱり自治の過疎ですとか無

医村の所ですとか、離島ですとかそういう所になるべく配置するように国の方でも考えてはくれている。

【向田委員】

今、私はこちらの委員もなんですけど、健康づくり推進協議会のほうにも参加させていただいてまして、そちらの委員会の中に、石狩の中にせっかく石狩医師会があるにも関わらず、医師会からの参加がない。歯科医師会のほうは参加があるんですけど、医師会の参加がないというのは、やっぱりちょっとさみしい。以前には入っていた経緯があるようなんですけど、今は医師会が入っていない。地元の医師会さんと、もっと密接なコミュニケーションをとっていく必要があるのではないかとすごく思います。小児科は昔から開業医になりたがらないというところが、夜中も起こされるし、開院しても自宅とは一緒にはしないとか、ドクター側からすると、なかなか開業したくないみたいなどの分野ではあるかと思うんですけど。やっぱり地元の医師会とコミュニケーションをとって、そこから先生の紹介ということもあり得るのかなと思いますので、ぜひその辺を市役所と医師会でコミュニケーションをとれたらいいんじゃないかなと思います。

【事務局（小鷹部長）】

そうですね。

【河野委員】

先ほど、乙部町の寺島元町長の話があったんですけど、あの方のことで思い出すのは、国保病院のお医者さんが見つからないと危惧していて、ご自身が全国を飛び回って、乙部町出身で、東京で働いているお医者さんをリクルートしてくるという活動をして、何とかいいお医者さんを町内に留めるということをしてたのを、私は拝見していたんです。やっぱり首長さんが自治医大にしても、今の石狩医師会にしても、もっと表に立たれたほうが、人と人とのことですから「だったらやってみようかな」というお医者さんもいるのでは。空いた病院の跡継ぎというか、他人でもなってくれる人が見つかるのかもしれないなと思いました。熱い人でしたね、寺島さんは。

【林委員】

やっぱり戦略目標2に「子育て力」をさらに発揮する、というところでは、小児科医がちゃんと安心できる数があることは、若い人たちにはものすごく重要なことだと思うので、役所としても力を、あるいはお子さんを持つお母さんたちが勉強会から始めて、署名運動的なものをしていかないと、アピールもしていかないと難しいのかなと思います。確かに、札幌に近いので個別には何とかできると思ってしまっているのかもしれないけど、やっぱり地域に、例えば学校の内科検診のこととか、その先生一人で全部やるわけにはいかないから、どういう体制にするのかしらとか、心配なことがいっぱい出てきますよね。ぜひ戦略目標との兼ね合いを考えて、力を発揮してほしいなと思います。

【角川会長】

ぜひ何らかの形で力を入れて取り入れていただきたいなと、私も切に。

【竹口副会長】

最後にいろいろ意見が出ましたが、実は私の子どもは大阪で生まれて、転勤族ですから、転勤する場所の小児科近くに家を借りたいということで苦労した経験がある。先生のほうから北大の大学病院の教授の関係もありましたが、医師会のほうにも働きかけまして、私の身内にも開業医が2人いるんですが、

開業するときは札幌医師会で何m離れた所で、という権限を持っているんです。卒業年次によって若い人はなかなか立地条件のいいところに開業できないらしいです。石狩の医師会から札幌の医師会にいて、行政としては廃業するようなところの医院の跡地を不動産業の人とタイアップしまして。ここですとほとんど、例えば屯田にある先生なんか、通勤してるんですよ。自宅でなくて。医院の跡地を行政の方でちゃんと調べていただいて、そういうことで跡地がありますという情報を医師会のほうに投げかけるような働きをすると、いくらかチャンスが出てくるのではないかという気がいたします。

【原委員】

思い出したんですけど、北海道で医院だけでなく薬局も同じように消えてなくなっている。それも問題化していますから、病院だけあってもしょうがないんで、薬局も確保するように戦略的に考えていったほうがいいかもしれない。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。今日は時間を充分確保できなくて申し訳ないんですけど、ちょっと話題を変えまして、観光事情ということで、高梨さん。何か情報提供ないですかね。

【高梨委員】

冬自体のイベントが何もない状態。前はJ C屋台村ですとか。屋台村もなくなって、今それこそ厚田のウインターレクフェスティバルぐらいしか冬の事業がなく。周りの事業者から言われるのが、ワカサギ釣りということを結構言われるんですけど、市としても漁組としてもあまりワカサギ自体を観光として推進してほしくないということで。うちのほうとしては、ワカサギはどこで釣れるの？と問い合わせがあっても、紹介はしないんです。釣っているところがあるけど、基本的に危険だからあまり行かないでくださいというふうにはしているんですが、そうも言っていられなくて。今、犬ぞりの体験だったり、冬の体験系で何かできないだろうかといった部分で、周りのほうから情報提供があって、何とか事業化できないだろうかといった動きがあることはあるんですけど、じゃあそれを誰がやるの？という感じに今の段階ではなっているかなと。

【河野委員】

犬ぞりの大会をご計画なんですか？

【高梨委員】

たまたまルスツのところで犬ぞりをやってる方がいらっしゃって、冬場は石狩灯台、ちょうどハマナスの丘のあたりは、冬の間は行けない状態なんです。せっかくだから、そこを活用して、温泉もあるし、ちょっと講習できるような体験をできないだろうかとか。

【河野委員】

実は明日のお昼、ちょうど犬ぞり協会の会長とお昼食べるんですけど、ちょっとその話、してみてもいいですか。もし、いい感触だったら繋がりますから。

【高梨委員】

よろしくお願いします。

【角川会長】

冬まつりも全くない石狩市で、夏もまるごとフェスタがない。さけまつりしかない。それに特化するのも一つなんですけど、やっぱり子どもたちの側からするとさみしいですね。間違いないですね、小林さんね。大きな規模で考えるからダメなんであって、犬ぞりレースだけとか、昔冬まつりでやっていた鮭の地引網レースだとか、例えば山が一つあるだけで子どもは滑り台にして喜ぶ。そういった小さいところから始めていけば本当はいいんですよ。夏まつりもそうなんですよ。酒井さんどうです。

【酒井委員】

皆、頭ではいろいろ考えるんだけどね、何でもそうなんだけど、いざ実行するという、その実行部隊というところが、若い人は勤めがあるし、年を取ってから重い物は難しいし。やっぱり何かをするとすると、母体となるところがしっかりやらないと、全部ダメになっていって、いずれなくなっちゃうという感じ。確かに雪をうまく利用しようと、昔から本町地区で市が除雪のことをやってみたり、いろんなことをやってるはずなんですけど、全部それも何となくなくなっちゃったとかね。だから、やりたいことは皆あると思うんだよね。子どものためにとか、孫のためにとかあるんだけど、実際のところどこかが中心になってやらないと、それもきちんとした組織づくりをしないと、絶対に1回やって2回やって、そのうちなくなっちゃうみたいな。そんなことが多くて、夏まつりにしても全部そうだと思うんです。やりたい、やりたい、やらなきゃいけないっていうのではなくて、きちっとしたものを作っていけないと、ダメかなという感じがするし、本町地区は、私はこれから伸びると思っていろいろ見ているんです。観光協会もあるし、民泊するところもありますよね。道路がないだけで、冬行けないところ。

【高梨委員】

あいほさんのところ。

【酒井委員】

あそこもうまく活用したりね。冬の石狩川とか、写真を撮る人もかなりいるしね。うちの花屋に飾っているんです、画廊みたくして。それを見たお客さんは、石狩にこういうのがあるんだと感動してくれたりしてるんです。やっぱり石狩の良さをこれからどンドン市と共にいろいろ発信していかなきゃならない部署が、観光協会だったり、青年部だったり、商工会だったりいろいろあると思うので、ぜひ冬を何とか、沈黙じゃなくてパッと花火が上がるくらいのものになれば、きっと元気になるのかなと。その一員でありたいなという気持ちはしてます。

【角川会長】

単独ではちょっと難しいので、それこそJV、ジョイントベンチャーじゃないですけど、JCと商工会で。なかなかまとめるのが大変なんですけど。

【小渡委員】

地域の魅力発信というところで言いますと、ちょっと先なんですけど、来年2021年9月なんですけど、アドベンチャートラベルワールドサミットというのが北海道で開催されます。それに向けて北洋銀行としても、地域のためにやっていきたいと思いますということで、先々週の土曜日、新聞にも出ていたんですけど、地域の魅力を167か点発信していきますよというところ。石狩地区は私が担当させていただき、今、まさしく本町地区の鮭文化を始めとして、地域重なっちゃいますけど北前船の歴史のところとか、後はアクティビティで、結構石狩ならではのスノーシューだとか、やられてる方もいらっしゃいますので、そういっ

たところを発信しましょうということで、石狩市のほうからも情報をいただきながら、準備して発信していきます。これから動き出したところで、2021年9月のサミット開催前に観光振興機構を通じて発信していくというところで、幅広い情報を集めてより良いものにして、いい発信をしたいので皆様からご協力いただきながら、最終的には市と連携しながらやっていきたいと思います。情報提供です。

【竹口副会長】

今、犬ぞりとか冬まつりの話をしましたが、うちの北連町で子どもを対象に、単独の町内会だからレクリエーションできないということで、1月末と2月上旬に紅葉山公園と若葉公園の2か所で、幼児から小学生までを対象にレクリエーションをやったんです。雪上宝探しということで、だいたい200名ずつ、400名くらい集まりました。どんなことをしてるかというと、雪の中にミカンを隠したり、クッキーをビニールの袋に入れて隠したり。学年別に保育園・幼稚園の生徒、低学年と分けまして、レクリエーションをやると結構人気ある。例えば今、雪合戦やってますよね。体育広場でも、うちの石狩のチームが練習をやってますけど、例えば犬ぞりだとか、子どもたちを対象にそういうことを複合的にやって、冬まつりを企画することも可能かなと。意外と家庭では子どもさんはやってますが、集まってやる機会がない。そういうことを、各団体の実行委員会なんか立ち上げてやることも必要かなと、そんなふうに感じました。

【角川会長】

ありがとうございます。時間も残り少なくなっているので、せっかくですから一言ずつ、お話いただいてない方をお願いしたいなと。何でもけっこうです。田原さん。

【田原委員】

役割として、連合北海道石狩地区連合ということで、要するに労働組合の関係で、私は出席させていただいてまして、元々は市役所の職員として、職員の仕事をお休みして職員労働組合の仕事をさせていただいている。石狩市役所にも組合がありまして、そこでも自治研活動ということで、いろんな市内で行われるイベントなどに対して、私たち職員としてもそうですけど、石狩で働く人間として、ボランティアでもっと地域に入っていこうということで、ボランティア活動としてお手伝いをさせていただいて、僕たちを知ってもらおうという活動をしています。去年は浜益のヘルシーウォークという、市内、道外からも来るお客さんに浜益の自然を歩いてもらって、知ってもらおうというボランティアをしたり、先ほど出たさけまつりではキッズ縁日というところのお手伝いをさせてもらったり、鮭のつかみ取りの補助をさせてもらったりしました。今後も市役所の職員としてもそうですけど、組合としても業務を越えた部分で地域に入っていく、何か一体となってつくっていけないかなというのは、組合としても話していますので、もし何かすることがあれば、できる・できないもあるかもしれませんが、関わっていききたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

【角川会長】

ありがとうございます。給食を食べた後、お時間も少しございますので、そこで守山部長と徳光さんにお話いただきたいと思います。残念ながらお時間になりましたので、この後フィールドワークなんですけど、その前に準備の都合がありますので、お時間10分ぐらい休憩とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【角川会長】

お時間のほうもございますので、進めさせていただきます。次第の4「その他」ですが、先ほどの続きで、一言ずつ、今日の給食センターの感想でもいいですし、何でも結構ですのでお話いただきたいなと思います。徳光さん。

【徳光委員】

今日、初めてここに伺いました。話の中でイベントだったり、冬のそういう集まりがない、やる部隊がないという話があったんですけど、例えば藤女子大学の人たち、先生もそうですし、せっかく石狩に大学があるものですから、そういう人たちを絡めて何か毎年やれるものがないか。生徒さんもどんどん変わりますから、大学側も地域と連携してやりたいとは思っている。何か一つきっかけで始められれば、毎年定期的にやるのが可能になるのかなと思って。藤女子だけでは無理だと思うので、商工会もそうですし、そういう形で連携して、連合してできるのが一番いいかなと。保育学科でしたか、それを踏まえてできるかなと思いました。

【角川会長】

ありがとうございます。続いて佐藤支店長。

【佐藤委員】

先ほど小児科の問題が出ておりましたが、各自治体、市立病院を持っている自治体につきまして、ほとんど日本全国まっかっかの大赤字でございます。だいたい市立病院の役割としては、精神科、産婦人科、小児科、なかなか医者が開業したがないところを、一般会計でだいたい補助しているのが実態でございます。やはり一つしかないということに対しては、相応のお金を積みばやってくれる先生はいるのかもしれませんが、逆にお金を積んでも今、道内の各総合病院も含めまして医師が不足しているという現状の中で、中途半端に踏み込んでしまうと、石狩市の財政が億単位でなくなってしまうところも事実じゃないかなと思います。そこはじっくりと熟慮して、どうやって小児科を安定的、継続的、持続的にずっともってこられるかという部分。やっぱり目先だけじゃなくて長い考え方というか、必要になるデリケートな部分であります。それだけに特化してしまうと、一般会計から支出するとなると、市民全体のコンセンサスが得られるかどうかという部分もございます。市としてもしっかりと議論していただきたいところだと思った次第でございます。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。続いて尾田支店長。

【尾田委員】

小児科の話、今日初めて聞いて、非常に危機的だなと思います。子どもを安心して育てられるまちじゃないと一層高齢化が進んでしまいますし、若い人がいるまちって活気があると思うので。今、我々が医者を連れてきたり、探したりはできませんけど、そう言われてみれば、花川に来て1年ぐらいになりますけど、歯医者を含めて開業の融資の相談を一度も受けたこともなかったなと改めて思い、開業したいという人があまりいないのかなと。もしそういう相談がきたら、今日のお話を踏まえて、小児科については前向きに検討しなきゃならないなというふうに思いました。あと、観光の話で言うと、私も「えー」と思いましたが、意外と冬、雪の中でキャンプをすとか、スノーモービル乗るとか、北海道の人じゃなくても、インバウンドもそうですけど、雪に触れ合う、雪の寒い中でキャンプをするというのが、非常に今人気の

あって、道内のキャンプ場がどんどん整備されていて、キャンプ場がすごい進めてて、実はうちのお客様でも、石狩ではないですけど、大きなグランピングキャンプ場とかを、市の支援を受けながら企画している会社があるんです。北海道の冬の中、雪の中のキャンプ場はすごく人気があるそうなので、石狩もたくさん土地があるし、札幌の隣ということなので、人も来やすいところにあると思うので、そんなことも、民間でできる話だと思いますので、情報提供としてお話いたします。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。最後に石狩振興局地域創生部から守山部長様がいらっしゃっていますので、一言お願いいたします。

【オブザーバー（守山部長）】

本日は給食を 40 数年ぶりに食べさせていただきまして、大変美味しかったです。ありがとうございます。また、最先端の給食センター、カメラですべて見える化した中でさらにオートメーション化という最新の状況を見させていただいて、非常に参考になりました。先ほどからイベント関連の話が出ていたかと思うんですけど、なかなかマンパワーが足りないという部分で、道としてもマンパワーといいますか、まだ札幌、石狩には人材がいるのかなという感じはしてるんですけども、全道を見て回ると人口減少が顕著になって、特に若者が出て行っている状況もある。あちこち地域のまちづくりだとかも、引っ張っていくような方々がいない。まだ予算が通ってない状況ですけど、新年度から知事の公約でもある、ニューリーダーネットワークという地域づくりに関わるような方々を、チャレンジしている方々を集めて、いろいろ課題等を聞きながら、また課題に対しての支援というのを、何かできないかということを考えていく。市町村ごとだったり、石狩管内だけだったり、または全道規模でというようなところで集まりを設けて、地域課題をやっていききたいなという部分を予定しております。今後、また事業の詳細が決まりましたら、石狩市役所さんを通じてそういう取組も行っていきたいと思っています。あとイベントだとかをやる際に、既存の事業であるんですけど、財政的な面で自治体だけではなくて、民間の実行委員会でしたら、任意の団体を含めて支援するものがございます。地域づくり総合交付金という制度がございまして、建物を建てたりとかハードな部分は市町村しかないんですけど、ソフトの部分はイベントだったり役割については、2分の1を補助するような制度がございまして、いろいろメニューだとかはあります。地域の活性化のためにそれぞれ取り組もうというようなものであれば、だいたい対象かなとは思いますが、10 万円から 300 万円まで補助する。任意の団体であればですね。何かそういうようなイベントをされるのであれば、石狩振興局のほうにご相談いただければと思います。事業の紹介をさせていただきました。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。補助金のお話、私もいいなと思いました。早速動くかもしれません。それでは事務局より、皆様方にご連絡があります。

【事務局（中舘主査）】

3 点ご連絡します。まず 1 点目、今後の総合戦略策定までの流れをご連絡いたします。

第 2 期総合戦略については、明後日、19 日に市役所内で本部会議を開催し、その途中、3 月の総務常任委員会での報告などを行いながら、3 月中の策定となります。

2 点目、本日の会議録は、会長にご確認いただいた後、皆様に配布いたします。

3 点目、先ほど配布しましたアンケートは、机の上に置いておいていただければ、事務局において後で回収いたします。

今年度の懇話会については、今日が最終となります。皆様、大変ありがとうございました。
事務局からは、以上です。

【角川会長】

ありがとうございました。今お話ありましたように、この2年任期の懇話会は今日で最後ということで、皆様、大変お世話になりました。

それでは、以上をもちまして、第3回石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。本日はお忙しい中、大変ありがとうございました。

令和2年3月7日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治